

なごや子ども貧困白書



日本では今や6人に1人の子どもが貧困状態に陥っている。そのなかで、世界的企業を抱えた愛知県、名古屋市は、貧困とはほど遠い地域だという幻想が長くあった。しかし、実は見えない所で子どもや若者の貧困は進んでいたのだ。

彼らを育てる家庭が経済的に追い込まれ、地域社会から排除、阻害されている。いったい何がそうした事態を生み出したのか。今、子どもたちの環境で何が起きているのだろうか――。

本書では、胎児期から若者に至る各世代の子どもと保護者を中心に置き、彼らを必死に支える教員、専門職、支援者らが視る「貧困」の実態を網羅するとともに、産業労働学者が高度成長期に端を発する制度の問題と現制度の課題を俯瞰する。

この地域から日本を見直す一冊である。

【本書の構成】

- 性教育は自分を大切にするための教育～10代の妊娠を予防するために(丹羽映江/産婦人科医、愛知・思春期研究会共同代表)
- すべての赤ちゃんに安心、安全、安定した環境と大人がほしい～家庭、家族から離れた子どもたちとかがわって(萬屋育子/NPO法人CAPNA理事長)
- 名古屋市内のファミリーホーム～地域で育つ社会的養護の子どもたち(伊藤龍仁/愛知東邦大学教育学部准教授、ファミリーホーム*マジカル)
- 赤ちゃん訪問は地域につなげる出向く支援(明石雅世/東区主任児童委員)
- 保育所から見える「困難」を抱えた保護者と子どもたちの実態(保育所関係者)
- 子育てで家族を支える保育園～養育環境の低下に抗する大きな役割(湧井規子/名古屋キリスト教社会館)
- 一時保育からみる保護者と子どもの権利保障(谷口由希子/名古屋市立大学大学院人間文化研究科)
- 発達障害の子どもたち(多久島睦美/あいちLD親の会 かたつむり)
- 児童館で出会った子どもたち・親たち(加藤久美子/元児童館館長)
- 学童保育における子どもの実態(賀屋哲男/名古屋市学童保育連絡協議会)
- 放課後の子どもたち～子どもたちはどこで遊ぶ? 冒険遊び場(竹村万知子/てんぱくプレーパークの会)
- 小学生の放課後施策について(安藤純子/NPO法人子ども&まちネット理事)
- 外国人の子どもと教育(小島祥美/愛知淑徳大学文学部准教授)
- 学習支援から見える「子どもの貧困」子どもたちが抱える困難(本岡恵/NPO法人こどもNPO)
- 日常風景に潜む「高校生の貧困」(小島俊樹/名古屋市立高等学校教員組合)
- 子どもたちの人間関係と不登校(幸伊知郎/私塾 フリースクール「まなび場」主宰、元中高教員)
- 不登校親の会が孤立した子どもたちと親を支える(安藤ふみ/不登校の子の子どもをもつ親の会「六等星」)
- 障がいのある子どもたちの自立に向けた支援(田中弘美/NPO法人子ども&まちネット理事、障がいのある子どもの父母のネットワーク愛知)
- 繁華街で夜のパトロール(荒井和樹/NPO法人全国こども福祉センター)中退する学生の裏に潜む「闇」(加藤正志/あしなが育英会大学奨学生OB)
- 森の里荘自治会コミュニティづくりのなかで子育て(小池田忠/緑区森の里荘自治会長)
- スラム化する公営住宅からコミュニティが支える地域居住へ～居住政策に向けて(岡本祥浩/中京大学総合政策学部教授)
- 働きたいけど働けない若者が働く自信と方法を手に入れるために～なごや若者サポートステーションがしていること(重原惇子/NPO法人ICDS)
- 生きづらい子どもや若者に寄り添うしなやかな仕組み～孤立防止をめざして(渡邊ゆりか/名古屋市子ども・若者総合相談センター、一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト)
- 若者の貧困と自立を考える(藤田榮史/元名古屋市立大学人文社会学部教授×子ども&まちネット)

付録: 子ども貧困対策の推進に関する法律、なごや子ども条例

編著者/特定非営利活動法人子ども&まちネット (T/F 052-768-5914、komachi-net@nifty.com)

監修/藤田榮史

発行者/風媒社(TEL052-331-0008、FAX052-331-0512)

体裁/本文 156 ページ、A5 判、並製 定価/1500 円(税抜き)

12月下旬書店販売開始

風媒社専用サイト <http://www.fubaisha.com/>でも受付中!